

- 1、単元名 ボール運動「ソフトバレーボール」
- 2、本時の目標 構えの姿勢から素早くボールの正面に動いて、ボールをコート中央や前方に高く上げる練習をして、カバーしてつないで返すゲームができる。
- 3、本時の評価規準<技能> ボールの真下に素早く動き、ボールを体の正面でとらえ高く上げることができる。
- 4、児童の実態
  - <学ぶ意欲> : 活発に外で遊んだり体を動かすことが多い児童が多いが、仲間と協力して上達するための声かけや関わりが弱い。
  - <学ぶ力> : リーダーを中心に揃って学習できるようになっている。1時間の学習の流れを理解し、個人課題を意識して練習ができるようになってきている。
  - <学び得た力> : オーバーパス・アンダーパスの技能は身につけてきているが、人と人之间に来るボールの処理がうまくできない。
- 5、本時の展開 (5/9時)

	学 習 活 動	研究テーマ具現のための手立て												
計 画 展 開 評 価	<b>①準備運動</b> ○パス練習（円陣パス）	<基礎技能を図るための反復練習> 【研究内容Ⅲ】 ・ボールを落さないための「数を数える声」「取る人をはっきりさせる声」をかけあいながら、オーバーパス・アンダーパスの技能の確実な定着を図る。												
	<b>②全体計画会</b> ○ボールの落下点に素早く動いて、ボールをコート中央か前方に高く上げ、つないで返すゲームをしよう。 ●動きの指示の声を出しあって練習やゲームをしよう。 ○本時の技術ポイントがわかる。 ・ボールの落下点に素早く動く。 ・1本目はコート中央か前方に高く上げる。 ・高く上がったボールを、相手コートに返す。	<切実感ある導入の工夫> 【研究内容Ⅲ】 ・前時のゲーム記録やVTRの提示から、本時の技術ポイントをつかませ課題化につなげる。												
	<b>③グループ計画会</b> ○リーダーを中心にG課題と個人課題、練習内容を確認する。	<課題把握における指導・援助> 【研究内容Ⅳ】 ・その子にあった課題が選択できているかを確認し、全体課題とのつながりを修正するとともに、本時意識させる動きや技術ポイントを作戦板やコートの中でつかませる。												
	<b>④前半練習</b> ○コートに3人入り、自在ボールを使って体の向きとボールを上げる場所を確認してから実際にボールを投げ入れてコート前方に上げる練習をする。 ・いつでも動ける低い構えから一本目を落さずコート前方に上げる。 ・「～さん」「あげろ！」の声を大きく出す。 ○コート前方にも人を入れ、投げ入れたボールをつないで返す練習をする。	<支えあう学習集団づくり> 【研究内容Ⅲ】 ・LやPOを中心に「動きの指示の声」を出し、ボールがつながった時やナイスプレーをした時は全員で喜び合えるようなGにするために、一回一回の練習ごとに見本となる声かけを行う。												
	<b>⑤中間研究会</b> ○めざす動きができてきているGの姿から課題の動きを再確認する。 ・ボールの落下点に素早く動いているかな。 ・一本目をコート中央か前方に高く上げているかな。 ・相手コートに返せるかな。	<つまずきに応じた指導・援助> 【研究内容Ⅳ】 ・自在ボールで意図的にボールの動きを設定し、体の向きや動き方を確認させることで、自信を持ってプレーできるようにする。 ・人と人之間にボールを投げ入れ、ボールを受ける人をはっきりさせるための「〇〇さん！」の声を周りが出すことを繰り返し練習させる。												
	<b>⑥後半練習（ゲーム）</b> 12点ラリーポイント制（6分以内） 審判 記録係 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ステージ側</th> <th>グラウンド側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		ステージ側	グラウンド側	①			②			③			<中間研究会での形成的評価> 【研究内容Ⅳ】 ・うまくなった子の取り組みと、それを支えるGの声かけを価値づける。
		ステージ側	グラウンド側											
	①													
	②													
	③													
<b>⑨グループ反省会</b> ○一人一人の課題の達成ぶりを交流し、よりよい動きになった子を認め合う。	<学び得た力を確かなものにするために> 【研究内容Ⅳ】 ・ボールがコート中央や前方に高く上がった瞬間の、その子の体の向きや素早い動きをその場で大いに賞賛し動きに自信を持たせる。 ・ボールがつながらない瞬間のゲームを止め、同じ場面を意図的に作り、誰がどのように動くよいかを自在ボールを使って指示し、もう一度同じ場面でボールを使って動きを定着させる。													
<b>⑩全体反省会</b> ○ボールの落下点に素早く動いて、ボールをコート中央か前方に高く上げ、つないで返すゲームができる。 ●動きの指示の声を出しあって練習やゲームができる。	<学び得た力を価値づける指導の工夫> 【研究内容Ⅳ】 ・ゲーム記録や練習の様子をもとによかった動きを具体的に価値づけ、次の意欲につなげる。													

